

NEWSLETTER



特集：2025年秋着任教員紹介 & アジア太平洋カンファレンス2025

【11月・12月号】2025年内最後のニュースレターです！

今年の4月より復活しましたニュースレター、今回号が今年最後となります。これまで多くの先生方に寄稿いただき、ありがとうございました。

来年以降も定期的にニュースレターを発行し、本学の研究情報を発信していきます！引き続き、ご協力よろしくお願いします。

自己紹介

- 1988年～2025年 日本航空に勤務。
支店開設、特別機・
チャーター機ハンドリング、
Operation Control Center部長
(ミッションディレクター)
- 1992年～1995年 フランス駐在
2009年～2012年 シンガポール駐在
2019年～2025年 ベトナム駐在



サステナビリティ観光学部
安部 秀人 教授

研究内容

航空産業論/Airlines Industry

理論だけに留まらず、実際の現場では何が起こっているのか？も含めて皆さんに紹介できるように努めていきたいと思っています。



メッセージ

APU学部生 / APU大学院生へ

人生は予期せぬことの連続です。いつまでも謙虚に、学ぶ姿勢を忘れないことが大切です。

APU志望受験生へ

広い世界は素晴らしい可能性で満ちています。この大学で学び、世界に羽ばたきましょう。

自己紹介

中国出身で、北海道大学にて観光学を専攻し、大学院教育を受けました。2025年10月にAPUに着任する前は、広島大学と北海道大学で勤務していました。仕事以外の時間には、別府の温泉や海・山に囲まれた美しい自然を楽しんでいます。一匹の猫と一緒に暮らしており、猫と過ごす時間が大好きです。



サステナビリティ観光学部
王楚君 助教

研究内容

観光学は学際的な分野です。私の研究関心は主に文化遺産と観光にあります。ヘリテージは受け継がれるものにとどまらず、常に創り出されるものでもあります。ヘリテージの創出によって、私たちは過去・現在・未来をつないでいます。観光はヘリテージを資源化・商品化するだけでなく、その変容や創造を促す役割も果たしています。

ヘリテージと観光の動態的な相互関係を批判的な視点から検討しています。質的研究方法論と再帰的な研究アプローチに基づき、観光の中でヘリテージがいかに変容するのか、そして、未来世代にとってヘリテージがなぜ大事なのか、といった問いを考察しています。

現在取り組んでいる研究プロジェクトでは、中国におけるミャオ族の銀細工を事例として取り上げ、無形文化遺産観光を通じた未来の創出に焦点を当てています。無形文化遺産観光は、多様な利害関係者がそれぞれの視点から望ましい未来の創造に関与できるよう、遺産を変容・活用する機会を提供します。価値観（Axiology）という理論的視座を踏まえて、「無形文化遺産の善さ（goodness）とは何か」という問いを立て、その観光によって生み出され得る多様なベネフィットを示すための価値類型を構築します。中国の湖南省・貴州省・雲南省でのインテンシブ・フィールドワークを通じて、これらの価値カテゴリーが実践の中でどのように具現化されるのか、そのメカニズムを明らかにしようとしています。

メッセージ

APU学部生へ

大学生活は、ジグソーパズルを組み立てるようなものです。あなたは、これからの人生で大切になるかもしれない「ピース」を自由に探し、見つけ出すことができます。大学時代は、まさに試行錯誤のときです。失敗を恐れずに、いろいろ挑戦してみてください。ひとつひとつの「ピース」を手にするたびに、あなた自身や、あなたが目指す未来が少しずつ見えてくるはずです。

APU大学院生へ

研究はクライミングのようなものです。道のりの99%は困難で、つらくて、疲れるかもしれませんが。それでも、頂上にたどり着いた瞬間、そのすべてが報われたと感じるはずです。大学院は、自分の関心や問いに深く向き合うための時間と環境を与えてくれます。どうか無駄にしないでください。興味を共有する教員に積極的に話しかけ、同じビジョンを持つ仲間を見つけてください。

APU志望受験生へ

「他人は自分を映す鏡」という言葉があります。他者や他文化との出会いから、「自分はどのような人間か」、「自分はどのような人間になりたいか」と考え始めます。大学では、多様な文化に触れ合い、自己を見つめ直し、そして未来の社会を創出する能力を身につけることが重要です。APUは、あなたにとってそのような場になると信じています。

アジア太平洋カンファレンス2025

2025年11月29日（土）、30日（日）の2日間、立命館アジア太平洋研究センター（RCAPS）主催による「アジア太平洋カンファレンス2025」（以下、APカンファレンス）を開催しました。英語で行われる人文社会系の国際学会として、日本最大規模を誇るAPカンファレンスは、世界の研究者に研究成果発表の機会を提供することを目的に、2003年から毎年開催しています。本カンファレンスでは、アジア太平洋地域とこれを取り巻く世界が直面する課題を学術的に議論することにより、本学が掲げる「Shape Your World」の実現に貢献することを目指としています。

今年は、「協調の再発見～断片化する世界の中で～」というテーマのもと、43か国・地域から約300名を超える参加者が一堂に会し、2日間に渡り全67セッション（研究者発表45、学生発表22）が繰り広げられました。参加者は京都大学、早稲田大学、エディンバラ大学、ワルシャワ大学など、国内外の60を超える大学等から集いました。



米山学長は開会挨拶の中で、「私たちは、協力を必要とする地球規模の問題と、ますます分断が進む世界という根源的な対立状況に直面している。この2日間のパネルディスカッションに参加する際に、単に断片化を分析するだけでなく、協力を積極的に実践し、ネットワークを構築すること、分野や国境を越えて共通点を見つけ、新しい知識だけでなく、新しいパートナーシップも携えましょう。そして一緒に協力を再発見しましょう。」と、参加者へ呼びかけました。

今年の基調講演は、「Forging Cooperation in a Fragmented World」のテーマで、本学卒業生で、現在、国連先住民族自主基金事務局人権オフィサーのMorse Floresさん（アジア太平洋学部 2006年卒、フィリピン）が登壇されました。Floresさんは講演の中で、「分断は避けられないものではなく、このような時代だからこそ、対話、信頼構築、協力の道を再発見する必要がある。アジア太平洋地域は、深い多様性と、協力を通じた平和促進におけるリーダーシップの計り知れない可能性を兼ね備えた地域である。協力の再発見は、教室、研究室、地域社会での選択から始まる。断片化する世界にあっても、協力は依然として人類の最大の資源であり、平和への最も確実な道である。」と述べました。講演後は、参加者より積極的に質問が投げかけられ、終了後もFloresさんを囲んでのディスカッションがしばらく続きました。



分断の時代において、数十か国の学者、実務家、学生が知識を共有するために集い、ネットワークを構築するこのカンファレンス自体が、協力の可能性を体現しています。参加者からは「幅広い分野の研究発表が行われており、専門外のテーマについても議論を交わすことができた。知見を広げる貴重な機会となった。」といった感想が多数寄せられました。

本カンファレンスが、参加された皆さまの研究に実りあるものとなれば幸いです。オフィスとしても、このような研究発表の機会提供を通して、APUの目指す社会課題の解決に貢献してまいりたいと思います。

次年度のアジア太平洋カンファレンスの詳細情報については、2026年4月頃にご案内予定です。多くの皆さまのご参加をお待ちしています。

立命館アジア太平洋大学総合研究機構が始動します！

本学において策定された「APU研究高度化計画（2025～2030年度）」の推進に向けて、来年度より、立命館アジア太平洋大学総合研究機構（AIRO:APU Integrated Research Organization）が始動します！

AIROは、本学に在籍する研究者が、学部・センターの垣根を超えて研究活動を展開させる機会や、国内外の研究者と連携する場ならびに若手研究人材の育成の場を提供するなど、多様な研究活動をより一層支援するためのプラットフォームの機能を担います。これにより、これまで築き上げたAPUの研究活動をさらに支援・発展させていきます！

詳細は、改めて本ニュースレターにおいて、ご紹介させていただきます。

研究費をお持ちの先生方へ



2025年度研究費 年度末の執行に関するお願い

オフィス発注：10万円以上の発注案件や、生協購入（書籍など）がある場合（個人立替払いを除く）
締切：2026/1/16（金）までにオフィスへご依頼ください。

外国送金：外国送金を伴う謝金および通訳・翻訳依頼などの海外への委託業務がある場合
締切：2026/2/13（金）

個人立替払い：請求書・領収書等証憑の提出（データ・紙媒体ともに）**締切：2026/2/28（土）**

※3/1（日）以降に執行する必要のある案件については、執行計画（費目、金額、証憑提出予定日を明示）をご提出ください。

学生アルバイト（卒業期）：**締切：2026/1/31（土）**

出張申請：**ご出発の2週間前まで。**

※年度末の出張は、計画が決まりましたらお早目に申請ください。やむを得ず年度をまたぐ出張が必要となる場合は2025年度分(3月31日まで)と2026年度分(4月1日以降)の2つの申請に分けてご提出ください。

外貨立替払い時のクレジットカード使用について：年度末（特に2月後半から3月末日まで）に、クレジットカード払いで外貨の個人立替払いをされる場合、**2026/3/31（火）までにカード利用明細書をご提出ください**

不明な点等ございましたら、アウトリーチ・リサーチ・オフィスまでご連絡ください。